



第51回 守山市美術展覧会

〒490-0001 守山市美術展覧会事務局(文化・スポーツ課内) ☎(582)1169 ㊚(581)2733

10月3日～11日に市民ホールで開催された守山市美術展覧会。今年は、市内外から285点の力作が出品されました。市展賞を受賞した作品や審査員の講評と総評を紹介します(敬称略)。

講評と総評

日本画

審査員：^{たかだ よしこ}高田 淑子

モチーフが面白く、色の塗り方、色感もよく動きもあり実感がよくでていて魅力のある作品だと思います。



市展賞
「蘇る遠い記憶の中に」
青井 恵子

審査員総評

今年は夏の暑さも厳しく、その上にコロナの事もあり、例年より出品作品が少なくなったのが残念です。出品作品はそれぞれ意欲的ですが、描く前の準備、物をよく見る、見た時に心で感じたこと、このことを大切にこれから頑張って描いてください。

洋画

審査員：^{いらかわ よしかず}市川 嘉一

やわらかい色調と愛らしいモチーフで子どもに注がれる愛情が深く感じられる作品です。今年度作品は少し小さめのモチーフばかりの構成なのが惜まれます。もう少し大きな画面構成も合わせて画面を作られると良いと思います。



市展賞
「子供部屋」
北村 好子

審査員総評

いい意味で濃厚で穏やかな作品が多く好感の持てる作品群でした。安易に写真を使った作品が目につかないのは良い傾向だと思います。ただ、若い人の出品が少ないためか意欲的・冒険心のある作品の出品が望まれます。

彫刻

審査員：^{さかい よしのぶ}酒井 嘉信

細部までしっかりと見てつくられた力作です。対象(モデル)の全体からくる印象だけでなく部分の起伏などにも感動し、急がず心をこめて形を追求されていると思います。ひたすら対象を見つめる制作ぶりに心打たれます。



市展賞
「闘い」
川邊 翔子

審査員総評

「彫刻」という言葉には古来木や石を削って作品にするというイメージがありますが、近代以降、素材や制作方法が多様化し、感動を立体で表現できれば彫刻です。彫刻という芸術でしか表現できない何かをそれぞれの素材で誠実に追求されている作品ばかりで、改めて彫刻とは何かを考えさせられる機会になりました。

工芸

審査員：^{みはら さだ子}三原 サダ子

しっかりした技術のもとに制作されたステンレスの花器です。上部のツバがゆるやかなカーブで表現されています。胴に面取りがされていて花器の口と呼応しています。花台ののっていた方が面取りの美しさが展覧する人によくわかり、さらに良かったと思います。



市展賞
「ステンレス花器」
真野 真

審査員総評

昨年より7点出品数が増え、特選が1点増えました。工芸の多岐に渡る分野でそれぞれの手法を生かし制作されていました。その中でも作者の創作に対する想いが感じられる作品を賞としました。賞に入らなかった作品の中に大変惜しい作品が数点ありました。次回に期待します。

書

審査員：^{かんだ こうざん}神田 浩山

タイムリーな題材でありながら、あくまでも白と黒の響き合い、それに伴う余白の美しさが際立ち、多彩な線を効果的に組み合わせ、書としての表現に徹している点に作者の高い見識を感じます。



市展賞
「緊急事態宣言」
井堀 多美子

審査員総評

思いのこもった力作をお寄せくださった出品者の皆さまに感謝申し上げます。そして発表の場があることに感謝し、これからも一緒に頑張りましょう。観者の皆さま、心の豊かさが私たちには「必要不可欠」で、そのために生きているのだということを感じ取っていただければ幸いです。

写真

審査員：^{きむら なおたつ}木村 尚達

桜の盛りを大画面で表現されたすばらしい作品です。桜の色を出来るだけ控え、まさに紅一点、左の赤い車を強調されたのが成功しました。ファインダーの中に赤い車を発見されたすばらしい作品です。



市展賞
「赤い車」
寺尾 幹男

審査員総評

デジタル化の波もようやく一段落し、けばけばしい色彩も少なくなりました。本格的に内容の表現に徹せられた成果が伝わってきました。題名に苦労のあとが見られて好感を得ました。なお一層の努力を期待します。